

インターネットトラブル事例集

総務省総合通信基盤局消費者行政第一課青少年担当発行

普段の何気ない行動が……

② 無料通話アプリなどでの悪口や仲間外れ

うっかり「？」をつけ忘れたために

一方的にグループから外されてしまった



クラスの仲良し数人でやっているグループトーク。Bさんは、書き込みの最後に「？」をつけ忘れたまま、スマホを置いてお風呂に入ってしまった。

お風呂上りにスマホを見ると、「ひどい！」などの書き込みが、誤解を解こうとしても、反応なし。Bさん以外のメンバーは別グループを作り、Bさんを外したのです。

考えてみよう！

会話の流れが速いために、ちょっとしたことで誤解や感情の行き違いが生じやすいグループトーク。いじめやトラブルが起きないために、できることはありませんか？

A. 文字だけの会話だから

「？」と「！」では意味が真逆になることもある文字の会話。こういった記号、スタンプ、(^_^)のような顔文字などを巧みに使って、みんなに正しく伝わるようにすることが大切です。

B. 早く複雑な会話だから

グループトークはテンポが速く、複数の会話が並行して飛び交います。途中参加をすると、流れをつかむのは至難の業。でも、曖昧な状態での会話はトラブルの火種になるのです。

C. ムカッ！イラッ！としたら

どんな会話でも、嫌な気持ちになることはあります。そんなときは感情をすぐにぶつけず、一呼吸して考えて、文字だとケンカになりそうなら、電話で話してみるのも良い方法です。

解説 グループトークに起因するトラブルも、パターンはさまざま

無料通話アプリのグループトークで生じる「いじめ」や「仲間外れ」は、地域を問わず課題となっています。特定の子に対し、その子の発言だけ無視する、その子にとって不快な写真や動画をグループで共有する、その子以外とグループを作り悪口を言う、その子をグループから突然外すなどが、何気ない出来事からいじめに発展することも少なくありません。メンバーでなければ会話の内容を読むことができないため、トラブルの発見が遅れがち。日々の様子や会話から子供の変化に気付くこと、これが早期発見や解決につながります。

ワンポイントアドバイス

周囲と違う意見が言いづらい雰囲気(同調圧力)が、いじめに発展するケースも。「空気を読む」ことの功罪を考え、思いやりの心を育てましょう。

青少年相談窓口をご利用ください

誰にも相談できず一人で悩んでいる児童・生徒の皆さん、子どものことで悩んでいるご家族等、気軽に青少年センターへ電話ください。メールでの相談も受け付けています。一緒に解決の糸口を見つけてみましょう。

青少年センターでは、引きこもり、学校での交友関係やネットいじめ、不登校、万引きや家庭内暴力等の問題行動、自分自身のことなど、青少年に関する相談を受け付けています。

- 電話・面接での相談 ☎71・2462 (月曜日～金曜日：午前9時～午後5時)
- 電子メールでの相談 ✉seishonen@city.azumino.nagano.jp

青少年に有害な地域環境実態調査

11月の「子ども・若者育成支援強調月間」にあわせ、センターでは青少年に有害な地域環境実態調査を実施しました。

市内コンビニエンスストア、レンタルビデオ店、カラオケボックス、ス、インターネットカフェ、書店等を訪問し、青少年に有害な物品の販売の有無等、店舗の実態把握のための調査を行いました。

有害物品を販売している店では区分陳列し店員の目の届くところに配置したり、酒類・たばこの販売店では購入時に年齢確認により、未成年者への酒類・たばこの販売

ス、インターネットカフェ、書店等を訪問し、青少年に有害な物品の販売の有無等、店舗の実態把握のための調査を行いました。

有害物品を販売している店では区分陳列し店員の目の届くところに配置したり、酒類・たばこの販売店では購入時に年齢確認により、未成年者への酒類・たばこの販売

売を徹底していました。また、児童・生徒のみの夜間利用や授業時間利用時の声掛けなどを行っていることを確認しました。

そして、市内には有害自動販売機が設置されている場所が1カ所あり、撤去が望まれます。

安曇野市

青少年センターだより

第13号

平成31年1月

編集発行

安曇野市青少年センター
安曇野市教育委員会生涯学習課
事務局：生涯学習課社会教育担当
〒399-8281 安曇野市豊科6000番地
☎0263・71・2000 ☎71・5000

子ども・若者 育成支援強調月間

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」でした。重点課題として若者の社会的自立支援の促進、子どもを犯罪や有害環境から守るための取り組みの推進、児童虐待の予防と対応、子どもの貧困対策の推進、生活習慣の見直しと家庭への支援を掲げ、子ども・若者育成支援に関する県民運動の一層の充実を図りました。

1日には「長野県子どもを性被害から守るための条例」の周知のため、県下一斉街頭啓発活動が行われました。市内ではJR豊科駅・穂高駅・明科駅前青少年サポーターである青少年センター運営委員があいさつをしながらティッシュを配布しました。



長野県 青少年健全育成県民大会

11月10日、諏訪市文化センターで長野県青少年健全育成県民大会が開催されました。

県知事、諏訪市長のあいさつの後、青少年健全育成表彰が行われました。市では、市少年警察ボランティア協会に所属し、明科地域青少年育成市民会議の一員でもある山口登さんが、長野県将来世代応援県民会議会長表彰を受賞しました。山口さんは、長年に渡り地域の補導活動や防犯活動、青少年の非行防止の啓発活動などに尽力されています。



ロウインダンスを披露しました。続いて、「スマホ時代の子どもたちのために」と題し、兵庫県立大学環境人間学部准教授の竹内和雄さんが司会を務め、岡谷南、諏訪二葉、岡谷東高等学校2年生の3人とパネルディスカッション形式の講演会が開催されました。竹内さんは、内閣府が行った2016年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」の結果から、「小学生の27%、中学生の51.7%、高校生の94.8%がスマートフォンを利用しており、子どもたちにスマートフォンを使用するなど言うことは難しく、どう付き合っていくかを考えていかななくてはいけない現状にある。スマホとの付き合い方を親子でしっかり話し合い、利用のルールを決めることや利用を制限する機能を使うのも長時間利用を防ぐ一つの方法である。そして、子ども自身がスマートフォンと上手に付き合い、自己管理していけるようにしていくことが大切で、大人は子どもの相談に乗れるようになることが大事である」と話されました。